

令和4年度第1回 静岡市みどり審議会会議録

- 1 日 時 令和4年7月6日（水） 14時～16時
- 2 場 所 静岡市役所 4階 災害対策室
- 3 出席者 (委員) 五十嵐会長、青木委員、伊東委員、大石委員、川口委員、杉本委員、竹内委員、西野委員、守屋委員  
(事務局) 鈴木緑化政策担当部長、桑原緑地政策課長、吉川係長、大滝副主幹、池谷主査
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 (1) みどりの基本計画改定の諮問について  
1) 諮問書  
2) みどりの基本計画改定スケジュール  
(2) みどりの基本計画改定の内容について  
1) 第1章 みどりの基本計画について  
2) 第2章 みどりの現状と課題  
3) 第3章 みどりの将来像と基本方針
- 6 会議録  
五十嵐会長 今日には静岡方面にも台風が来るのではないかと心配しておりましたが、今のところ非常にいい天気になっております。これは委員の皆様方の日ごろの行いの良さだと思えます。  
今部長さんからお話がありましたように静岡市のみどりの関係の基本的な計画になりますみどりの基本計画、これが先ほどご説明がありましたように、最初作ったものを平成27年にその当時の新しい視点がいろいろあったということで一部改定されているのが多分お手元に行っていると思います。これを今回さらに世の中の動きが激しいということで全面改定をされるということでございます。  
今日事務局から説明がございましたのは、事務局がこの基本計画の改定案をまとめるに当たりまして、学識経験者の方々から成る検討委員会を別途作っておりまして、その検討委員会と事務局がいろいろまとめたものをご説明いただけるのだと思います。これをさらにいいものにしていこうということで本審議会に、まだ諮問がされておりませんが、諮問をするということになっておりますので、一つ非常に重要な計画でございますから、皆さんが日ごろみどりに関して考えておられる問題点を大いに発言していただ

いて、静岡市のみどりの基本計画が全国に鳴り響くようなものになればいいなど、こう思っておりますので、一つよろしく願いいたします。

(1) みどりの基本計画改定の諮問について

- 五十嵐会長      ありがとうございます。今、事務局からみどりの基本計画改定をす  
るということを前提にして諮問がなされたわけでございます。一番最初にみどりの基本計画改定に当たってみどり審議会と事務局側で取組まず作業部会、専門委員会の形が一番最初のもので説明をされたと思います。最後に資料3で、この審議会では4回でまとめるといいますか、そういうことを考えているというお話がございました。そこでまずこの入口の問題ですが、検討体制、諮問の内容、それと日程的な問題について何かご質問等ございましたらどうぞ。
- 五十嵐会長      今年度4回で、日程表を見るとあと2つ黒丸があるのは次年度にまだあと2回やるということですか。
- 事務局          今年度3回、来年度2回です。
- 五十嵐会長      4つ丸があるのですが。そうすると、みどりの基本計画の改定に絡んでやるものはこの黒丸が塗ってあるのを全部やるわけではないということですね。
- 事務局          一番左の、これは昨年度のもんです。
- 五十嵐会長      今年はこの3回で中間報告まで。来年度の2つというのは、さらに作業を進めた過程で、要するに答申案をまとめるという形になるわけですか。
- 事務局          そうです。
- 五十嵐会長      わかりました。そういう流れのようでございますが、これで一応作業を進めてまいりたいと思います。事務局から説明される内容が、事務局側も専門委員会と議論をしながらまとめておりますので、相当細かい点までまとまったものが上がってくるのではないかと思います。それに対して大局的な見地からというお話がありましたが、あまりそれにはこだわらず委員の皆さんの思いを出していただけたらいいのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

(2) みどりの基本計画改定の内容について

1) 第1章 みどりの基本計画について

- 五十嵐会長      ただいま第1章について説明がございました。ここはあまり意見

を戦わずというよりも、質問がもしあればしていただければと思います。何かありましたらどうぞ。

事務局

事務局からお尋ねさせていただきます。1ページの右下に観光とか農業とか各分野から見たみどりの効果ということでまとめているのですが、例えばほかにこういう分野があるとか、これらを一括りにしたほうがいいのか、そんなご意見でも結構ですので、ほかにこういう視点からの効果のチェックが必要なのではないかと、そんなご意見もあればお聞きしたいと思います。

五十嵐会長

今回都市公園法の改正、官民連携というのが強く打ち出されているものですから、官民連携という分野を新たに加えたというところが前回から大きくというか、新しく加えたところでございます。結構これから細部にわたって話が出てくると、今部長が心配した新しい視点みたいなですね。

事務局

途中でこういうのがあるのではないかとこのもあるかもしれません。

五十嵐会長

ここに挙がっているのは主な課題になっていますが、これの細かい話と申しますか、いくつかの中からも視点が分かれるのではないかと、そういうことで委員の先生方からご意見が出るのではないかと申します。

また今回も20年先を前提に、そして10年具体的にということですか。

竹内委員

1ページの農林水産の枠の中で「農地や水田の存在により」とあるのですが、水田は農地の範疇に入り込む内容かと思うのですが。

事務局

そうですね。ここの表記については。

竹内委員

そういうことをご指摘させていただくのですが、今パッと目に入ったのはこのあたりかと思えます。

事務局

ありがとうございます。

守屋委員

分野別に見たみどりが持つ主な効果のところですが、みどりの基本計画なのになぜ「観光・交流」が一番前に来ているのか。これができる市民の手元に行ったときに、一番最初にあるというのは大体一番重要というふうに皆さん見ると申すんですね。そのときに、都市・社会基盤よりも、農林水産よりも、それを超えて観光なのかというふうに捉えがちなかと思ったのですが、1番に来た理由があるのかなと思うのですが、ありましたら教えてください。

事務局

ここの分野につきましては、静岡市の総合計画と調整を図りながら抽出しておりまして、「観光・交流」は静岡市の総合計画の中ではかなり重要なポジションとして位置づけていたものですから、今はたまたまその並びで書いてしまったものですから、確におっしゃるとおり、この辺の並びにつきましてはもう一度考え直させていただいて、どういう並びが適切か、第2章とも絡んで

くる関係もありますので、その辺の整理をさせていただこうと思います。ありがとうございます。

五十嵐会長 ありがとうございます。ほかにありますか。それでは、またここに関して何かご意見があったら後ほど言っていただいでよろしゅうございますので、第2章、本市におけるみどりの課題について事務局から説明をお願いします。

## 2) 第2章 みどりの現状と課題について

五十嵐会長 今かなり長い部分でしたが、第2章のみどりの現状と課題、結構さりげなく課題についても触れられていました。細かくは今後の中に出てくるのでしょうかけれども、今説明のあった内容について質問なり意見なりありましたら、今の範囲のどこでもいいですからご発言をお願いしたいと思います。

伊東委員 よろしいですか。緑視率というお話がありました。これは静岡市さんの独自の評価ですか。

事務局 いえ、静岡市独自のものではなくて、ほかの自治体様でもこういった手法を取り入れているところがいくつかございます。

伊東委員 そうしますと、例えば一般的に緑が多いところの写真を撮れば圧倒的に50%になってしまうのですね。その基準というのがあるのかなと。

事務局 明確な基準というのはないのですが、概ね人間の視界の高さになる1.5mというところを基準にして撮るといような大まかな基準はあるのですが、具体的にこの角度でこの方向から撮りなさいという明確な規定は特にはないです。

伊東委員 恐らく一般市民の方からすれば、自分が言ったように恣意的に緑が多いところ、少ないところを撮っているのではないかという感じなのですね。例えば静岡駅の北口を出て満遍なく全部見る。パノラマで撮って。で、南口を見てどうだとか、そういった1つの基準を作ってもいいのかなと思いました。

あとはスポット的に緑の多いところ、少ないところはこういうところがあるのですよという紹介のほうがわかりやすいのかなと思いました。

事務局 ありがとうございます。

事務局 今までは水平投影面積というか、上から見て平面図にみどりの面積を落とし込むような、そんなやり方、緑被率ということをやっていたのですが、それよりは人間の感覚として垂直面のみどりのボリュームのほうが実感に近いのではないかとということで今回変えているというところと、もう1つ、伊東さんがおっしゃって

くださったような恣意的に多いところと少ないところ、そういうのもあるのですが、逆にそういう方向で、よりここは強調したいとか、まさに玄関になるようなところは印象的なみどりとか、そういうところに重きを置いてとかですかね。

伊東委員  
事務局  
五十嵐会長

あるいは地下道から出た出口ですね。  
印象的なみどりを増やすべきだというご意見もあると思います。緑視率を取り上げたわけですから、これはある1地点だけではなくて、静岡市全体の緑視率を高めようというのが背景にあるのでしようね。

事務局

さっき冒頭にありましたが、背景としてのみどりは山がちゃんとあるものですから、多いとか、そういうところもあって、身近なみどりに不満に思っている人の数が意外と少ないなというのが私の実感なのですが。ただ、まちなかのみどりはすごく少ないと思っているものですから、そういうところで印象的なみどりというのをどうやって増やしていくのかなというのが、私が思うにはその辺が一番大きな課題だし、事業効果がすぐに表れるのはそういうところかなと思います。

五十嵐会長

市の個性を出していくにも必要なことかもしれません。これはどういう検討がされるか、緑視率についてはぜひ関心を持っていきたいと思います。

大石委員

今たくさんありましたが、その中で特にみどりに対する市民の関心度というのは3地区によって、特に駿河区が意外に少なかったですよ。みどりに対する関心はあるのだけれども、活用はしているけれども、実際に自分たちがボランティアとしてみどりの活動をするということに対しては非常に少ない。

実は各町内でみどりに対するいろいろな施策や行事をやっている、それが質的な面でどうしてもやらざるを得ないというところではなくて、新たにそういうものを作り上げてだんだんモデル的に増えてきているというようなところがかなりあると思うのです。そういうところも、先ほどみどりに関わるいろいろな項目がありました、それも1つになるのではないかと。

なぜこんなことを申し上げるかというと、地域によって関心度、意識度というのがすごく格差があるのです。これからますます少子高齢化ということになってくると、若い人の関心度を上げていくということをいろいろな面で図っていかねばならない。そのためには何をしたらいいか。これはPRの方法だとか、モデル地区があってこんなことをしたということで好事例というのがあると思うのです。そんなものも含めながらこれからPR活動の中にそういうのを入れたり資料を作ったりということをしていきますと、そんなに費用がかからないでいい方向に行くのでは

ないかと思えます。

事務局

例えば道路サポーターなども 150 団体近くありますので、そういったものを1つの例として、成功事例として紹介したり、若い世代の方々が関心を持ってもらえるようにいろいろな部局と連携してみどりに関心を持ってもらうような仕組みづくりを市がやっていたらいいのかなと個人的には思っております。そういったところも反映できるような計画にできればと思っております。

五十嵐会長

私もこのアンケートの結果を見てびっくりしたのですが、僕は静岡市民はこっちのほうには相当関心を皆さん持っているのではないかと思ったのに、意外と関心がないという感じが受け止められるので、ああと思いましたね。

大石委員

私も地域でそういう活動をしているのですが、最近若い人がそういうものに対して参加をしないです。それが非常にこれから心配だなという点があるものですから、自分たちの住まいを豊かにして安心・安全な、防災、すべての点において環境づくりをすることからすると非常に先が心配です。

五十嵐会長

これは今後どう広報していくか、そういうことも合わせて提案していくようにしたいと思います。すごく誇れる道路サポーターでしたっけ、そうではなくて本当は公園サポーターが多いというぐらいの話であればまだいいと思うけれど、道路だけではどうしようもないですね。

事務局

補足で、我々この計画を作る前提としてお金の話をまず出して、事務局として説明のとおり、なかなか伸びていくことはないだろうと。いかにお金を使わないで成果を出していくか。

1つには駅前の駅の顔となる部分というのは植え場所はしっかりあるものですから、そういうところは木を植えていく。公園を1つ整備するよりは全然お金がかからない。

もう1つは、委員の中にもいらっしゃいます協議会的な活動をしていただいている部分でみどりに関心を持ってもらう活動というのをいくつもやっていただいているのですが、そういうところを手厚くやれるような、お金をかけないでというのはくどいようなのですが、お金がない中でそういった協議会の活動を手厚くしてメンバーを増やしていけるような、そんなこともできたらどうかということも考えて今回のみどりの基本計画は作っていくようなところもあります。

五十嵐会長

ありがとうございました。

守屋委員

たくさんあるのですが、今財政状況がというお話があったのですが、公園を整備すれば管理費は必ず必要になるものであって、それを見直すとか、管理費を削るからだんだん先細りになって

いって市民も使わなくなるというずっと同じようなことを繰り返してきたと思います。だから、整備費とか推進費は細るにしても、管理費は削るべきものではないのではないかと思います。きちんと管理しないから枝が伸びた、うちに入ってくるとか不満が出てくるので、そうではなくて、きちんとやればみどりも増えてくる、邪魔者ではなくなるということで、若い人たちもなってくるのではないかと思います。

事務局

2 番目ですが、静岡駅の南口や清水駅、草薙の南側もそうなのですが、このところずっと整備をしてきれいにして、でも植栽がまだない状況、あそこを取ってしまうとみどりが少ない。

守屋委員

植え升があるかないかで。整備した後、植え升がなければ今後とも恐らく植栽されることはない。

整備したときに植え升がないというのももちろんありますし、木を植えたら大きくなるというのが前提なのに、どこも植え升が小さいです。植えたときの植え升しか考えていないので、大きくなれば根っこが盛り上がってくるというのは当然ですし、下に行けなければ余計に上に根が出てくる。結局道路も歩道も修繕しなければならぬ。わざとお金をかけるような工法をやっているのではないかと思ったりするので、植え升も、大きくなる木であるならばきちんとそこは考えて植え升を作っておくべきだろうと思います。

3 目ですが、あさはた緑地も鯨が池のところもそうなのですが、SDGs や生物多様性とマッチングするのであれば、両方とも外来種の方ですね。なので、鯨が池は特に釣りの業者さんも入ってきているという事情もあると思うのですが、それならばここを区切るなり、きちんとするなり、あとは植栽も公園にあるようなお花を植えてみたり、そういうのではなくて、きちんとともにあったものを植えるとか、そういうところを考えていただけるといいのかなと。

確かに麻機遊水地に来てザリガニがいたとか、メダカに似ているけれどカダヤシで、これは持っていけないんだよみたいな、捕まえても持っていけないというのは子どもたちにはすごく残念ですね。カダヤシは持っていっちゃいけないと言っても、やっぱり持っていきたくて、ザリガニも自分で飼ってみたいというのを、わざわざ釣ったのをそこでまた放さなければいけない。それよりはきちんとした整備をすることによって、子どもたちも行っているし、親も一緒に行くパターンになると思うので、そこをもう少しきちんと線引きすることでもっと市民が関わるができるようになるのではないかと思います。

もう1つ、麻機遊水地は半分は県でしたか。

事務局 半分というか。

守屋委員 公園はこっちでしたよね。

事務局 そうです。公園は全域、1工区の場合はそうやっているのですが、主には陸地に。

守屋委員 陸地のほうから。

蓮田のほうは？

事務局 蓮田も一応公園扱いはしています。

守屋委員 こども病院側ではないほう？

事務局 公園区域になっています。

守屋委員 ここは毎年毎年蓮が広がっているんですよ。

事務局 ちょうど今見ごろで。

守屋委員 花のときはいいのですが、その後がものすごく醜かったり、今後そのままどんどん増えていったら根っこがものすごいですよ。あれ、ゆくゆくは恐らく陸地になってしまうのではないか。だから、何年か後を考えて、5年後、10年後というのをきちんと考えて蓮田の整備をしていかないと負の遺産を残すような気がします。以上です。

五十嵐会長 ありがとうございます。一番最初に挙げられた財政に絡んだ話はものすごく大事なところなので、本当は新しい計画改定をやると、現況の進捗があまりよくないという話ですし、将来これを目指してこれだけ投資を図るんだみたいな意気込みで作られるのですが、どうもさっきからの説明を聞いていると横ばいが限界かなという、そういう話でスタートしています。その辺はどういう視点でやるのですか。

事務局 実は冒頭お金がないよという話から入ってしまって、それが前提としての計画のような感じがするのですが、我々事務方としては作戦がありまして、要は今回の計画自体がかなりメンバー、グリーンインフラという視点もあって、子育て部門、あるいは福祉の部門、観光の部門であったり、メンバーを幅広く取っています。みどりというのはこれだけ効用があるのでお金をくださいとこれから事務方が財政へ要望するに当たってそういった意図も持って、かなりメンバーも幅広くしてみどりの効果はこれだけありますよ、ですからお金をしっかりとくださいと言うための内向きの資料でもある。本当は市民の皆さんにみどりの行政しっかりわかっていただく、わかりやすく説明する資料ではありますが、我々が予算をしっかりと取っていくということを内側には秘めた計画ではあります。ですから、ご指摘のとおりしっかり管理をするためにしっかり予算を取っていく、そのための計画でもあります。



今実際はお金がないので剪定も2年に1回であるとか、あるいは強剪定して時間を小さくしてしまうというのがあるかなり見苦しい部分というのがあります。お金がないばかりにそうしてしまっているという部分もあるし、そういうところは我々が市の行政の内側で改善していくという意図を持ってこの計画を作るといふところも含んでおります。

五十嵐会長

作戦的にはそれで必要なのかと思います。計画づくりのこういう場で初めからそれ前提で本当に話をするのですか。専門委員会のメンバーはよくわからないけれど、ここの皆さんにそういうのを初めからやってしまうと、市民代表の皆さんも、えっ何だという話にならないのか。その辺の考え方ですね。

事務局

今回は言っていないのですが、節約しながら管理を工夫してお金を生み出して別のところへ回していく。今まで経常的な経費でかかっていた部分をいかにマネジメントの中で減らしていくかというの今後この計画の中に入ってきます。そういったお金をうまく全体でみどりの推進に振り分けていく。

もう一つは、ないものをもらってくるという直接的な部分もあるのですが、現実的にはない中で動かざるを得ないというのが財政的な見通しですので、それを前提に計画を作らざるを得ないのかなと。ただ、工夫はして効果を最大限に出していきましようという計画づくりを目指しています。

五十嵐会長

工夫は大いにやるべきだと思います。それは計画に書く話ではなくて、行政の手法の問題だからね。特に僕がびっくりしてしまうのは、先ほどの答申書の説明の中にあったように、世界に輝く静岡の実現、それからもう一つは世界にアピールするという言葉が2回ぐらい出てきたと思うのですが、こういう都市を本当に、僕らもそういう都市になってほしいと思うのですが、そうするとまさに公園だけではないけれども、幅広いみどりを含めた環境が一番静岡市がアピールするにはふさわしいベースではないのかという感じがしないではないんだよね。そうすると、中心は俺の部だという話で、別の意味で予算獲得に頑張るみたいな、そんな話につなげていく計画であってもおかしくないのではないかと思います。

事務局

今会長がおっしゃってくださったような、そんなところなので、逆に答申のイメージとして、今思いついたのですが、そういうものだからいろいろな分野と絡むみどり行政なので、当然のことながら各分野でみどりをやっていくというところで、だから都市公園の位置づけで、公園の予算というところしかないので、福祉とかそういうところの予算でこういうことをやっていくとか、ちょっとそんな方向でまとめていくのもいいのかな

と。今思いついたのですが、公園だけの予算ではなくて、スポーツとか学校とか福祉とかいろいろな分野で絡んでくるので、そちらの分野のみどりに関わる予算というのが集まってきて、当然のことながらこれの2倍、3倍ぐらいの事業規模になっていく、そんなところを目指していくべきではないか。そんな答申の内容もあるのかなと今思いました。

五十嵐会長

あまりこればかりやっているとなかなか結果が出ないので、ほかにどうぞ。

青木委員

静岡市を見ていまして、ちょっと道を歩いたりしますと、結構空いているところに草が気になる場所が多いんです。静岡市は市の花というのがあって、タチアオイなんか本当に1週間ぐらいしか咲かないのですが、何かまとまった目を引くようなものが、あるところに行けばこの時期になるとこれだけ咲いているよとか、これだけいい木があるよとか、そういうポイントを静岡市のあらゆるところにちりばめる、そういうような計画を入れてもいいのではないかと思うんです。

駿府城公園なんか最初、真ん中辺はお茶の生け垣になっていたんですよね。ちゃんと整備がされないものですから、静岡はお茶という、せっかく植えたものがほとんど駄目になって、もうないぐらいですよ。そういうことも計画の中にきっちり組み込んで、市民がすごく親しみやすく、ここにこんなものがあるという、そういうものを植え込んでいく、そのようにしていってらどうかと思うのですが。

事務局

さっきご紹介しましたが、若手の職員がいろいろ活動している中で、公園管理者ならではの知る人ぞ知るようないい花とか、見ごろの時期とか、そういうのをSNSで紹介したりというのもちょっとずつですがやっています。花暦みたいな感じで、この時期にどこそこ公園に行けばきれいな椿が見られるとか、そんなような広めていくようなことはやっております。

青木委員

確かにあるのですが、なかなか行けない場所もあって、車とか、いろいろな交通量、もう少し静岡市内とか、行きやすい駅の周りとか、誰もが身近に目にできるようなところにもう少し多くあったらいいなと思うのですが。

事務局

まさに印象的なところにきれいなものを、そうですね。

五十嵐会長

ありがとうございました。今のお話はさっき部長が緑視率のところでも言いましたが、考え方はぴったりしていますから、大いに新しいものを盛り込んだらいいと思います。ほかにどうぞ。

大石委員

聞きたいのですが、街路樹は例えば落葉樹が多いとどうしても管理費がかかってくる。それを初めから針葉樹を使うとか、もっと低木のものを使うとか、それによって先ほどの緑視率との

関連が出てくるのですが、しかし今後10年、20年を考えていったときに、今例えば高木でかなり大きくなってしまって舗装もめくれてしまって大変だなという地区もかなりある。20年ぐらい前にどんな計画をしたのだろうかということもあると思うんです。

一番最初からカエデを使って落葉で毎年いろいろ、しかも高木になった。計画的にはやってはいるのですが、何かその辺がちぐはぐな感じがあるのですが、どんなふうな計画と管理の整理をしているのかなということを時々疑問に思うことがあるんです。

それともう1つは、都市計画だとか上位計画との関連で部署が縦割りになるから、どうしてもその辺の予算の関連だとか、実行の速度だとか、いろいろな面でなかなか難しい点があることはわかるのですが、行政の縦割りの問題点とか、そんなこともあるのかなということを感じないでもないものですから、その辺をぜひご配慮いただけるといいかなと。

事務局

私ばかり発言して申し訳ないのですが、街路樹については道路管理者もかなり課題意識を持っていまして、静岡市の歩道は幅員がかなり小さく、本来ケヤキなんか植えられるはずもないのに植えてしまったり、そういう部分でおっしゃるような弊害があるところで、街路樹のマニュアルを道路部門で作りました、ここまでの幅員だったらここまでの樹木しか植えられませんか、あるいはこの路線のこの街路樹についてはこういう管理計画で向こう20年やっていくとか、そういう計画なりマニュアルをちょうど作りましたものですから、これからは多少いい方向に向かっていく。大石さんもかなりお詳しいのですが、我々みどりの勉強をしたのも、街路樹は落葉樹が基本なんですね。地先の沿道の皆さんは落ち葉とかそういうのを嫌がるということで、そこが永遠の課題というか、眺める分には当然落葉樹なのですが、沿道の方は迷惑、そこは民度という失礼になってしまうのですが、迷惑をこうむる人と眺める人との違いというのもずっと課題です。

大石委員

神社仏閣でもクスノキがでっかくなってしまって道路がこんなになるとか、あれも昔からの文化遺産との関連とか、広大な敷地があればいいのですが、どうしても道路際で道路を塞いでしまって、そういう点で問題点も今出ています。やはり経済発展とかいろいろな変化の中で大きくこれから問題も出てくるし、費用の問題をどうするんだということも出てくるかなと思うのですが。

五十嵐会長

道路とみどりのサイドは一応協調してやっていこうという動きはできているのですか。

事務局

はい。街路樹の表面管理は我々がやっているものですから、連携

五十嵐会長 伊東委員 してマニュアルは一緒に作っています。  
ほかにどうぞ。  
1点確認ですが、37ページ、課題4、ここでは「公民連携」とな  
っています。ほかでは「官民連携」になっています。公にした意  
味合いはありますか。公という言葉でも別にいいのですが、何か  
特別な意味があるのかなと思ひまして。

事務局 伊東委員 特にないです。  
統一するか、意味合いをあれですね。  
事務局 オレンジの、こちらは「官民連携」となっているの  
ので統一するよ  
うにいたします。

事務局 話が戻ってしまうのですが、西野委員はお仕事で街路樹の管理を  
なさっている中で、静岡市の街路樹のやり方というか、こうすべ  
きだとか、そういうご意見がありましたら。

西野委員 私が関わっているの  
で皆さんのご意見は全部わかるので。管理を  
増やせと言われれば嬉しい  
です。緑陰樹もないもの  
ですからね、南口は特に。  
そこにヤマモモが2本しか  
ないもの  
ですから、日影も何もな  
かったり。私は緑視率の  
話も石田街道のところは  
ずっとイチョウがあっ  
たのを知っていますし、  
全然みどりが多いな  
んていう印象はない  
のですが。

部長がおっしゃったよ  
うに、とにかくインパ  
クトのあるところに  
大きな木というん  
ですか、緑陰樹があ  
ってもいいのでは  
ないかと。皆さん  
のご意見はすべて  
わかっています  
から。

あと1つだけ、疑問  
と言っ  
ては何  
ですが、みどり行政  
とおっ  
しゃ  
っている  
中で、み  
どりに  
関心  
がない  
とい  
うの  
に驚  
いた  
とお  
っ  
しゃ  
って  
いま  
した  
が、行  
政の  
職員  
さん  
にみ  
ど  
り  
に  
関  
心  
を  
持  
た  
せ  
る  
と  
い  
う  
か、  
長  
期  
的  
に  
こ  
う  
い  
う  
基  
本  
計  
画  
が  
で  
き  
る  
中  
で  
い  
ろ  
い  
ろ  
な  
部  
署  
に  
行  
っ  
ち  
ゃ  
っ  
た  
り  
し  
て、  
育  
て  
て  
専  
門  
的  
な  
こ  
と  
を  
も  
っ  
と  
詳  
し  
い  
と  
い  
う  
か、  
そ  
う  
い  
う  
職  
員  
さ  
ん  
を  
増  
や  
し  
て  
く  
れ  
た  
ら  
い  
い  
な  
と  
思  
い  
ま  
す。

事務局 政令指定都市になり  
まして、政令市の公園  
の関  
係の  
会  
議  
が  
あ  
っ  
た  
り  
し  
て、  
そ  
う  
い  
う  
流  
れ  
に  
な  
っ  
て  
く  
る  
中  
で、  
そ  
う  
い  
う  
場  
に  
行  
っ  
て  
対  
等  
に  
議  
論  
で  
き  
る  
よ  
う  
に  
な  
る  
に  
は  
今  
西  
野  
さ  
ん  
が  
お  
っ  
し  
ゃ  
る  
よ  
う  
に  
専  
門  
で  
あ  
る  
程  
度  
や  
っ  
て  
い  
く  
よ  
う  
な  
職  
員  
が  
必  
要  
と  
い  
う  
こ  
と  
で、  
造  
園  
の  
エ  
キ  
ス  
パ  
ー  
ト  
コ  
ー  
ス  
み  
た  
い  
な、  
そ  
ん  
な  
コ  
ー  
ス  
を  
希  
望  
す  
る  
職  
員  
を  
募  
っ  
た  
り  
し  
て、  
そ  
れ  
で  
手  
を  
挙  
げ  
て  
く  
れ  
て  
い  
る  
職  
員  
も  
ち  
ら  
ほ  
ら  
出  
て  
き  
て  
お  
る  
も  
の  
で  
す  
か  
ら、  
だ  
ん  
だ  
ん  
そ  
う  
い  
う  
方  
向  
に  
は  
な  
っ  
て  
い  
き  
ま  
す。

五十嵐会長 今西野さんが言  
われたこと  
について、  
全国的な、  
政令指定  
市はわり  
あいあれ  
ですが、  
市の大き  
い問題な  
んですよ  
ね。まち  
づくりは  
大切だ、  
その中  
でみどり  
が環境問  
題に合わ  
せて求め  
られている。  
そ  
う  
い  
う  
動  
き  
な  
の  
で  
す  
が、  
基  
本  
的  
に  
課  
を  
持  
っ  
て  
い  
る  
と  
こ  
ろ  
さ  
え  
な

いというかね。だから、そういう点から、これからまだまだ発展の余地はあると思いますし、そういう市をけん引していくのが政令指定市なんです。だから静岡市が頑張っってやって周辺の市町村を引っ張っていきみたいな、そういうきっかけに県内としてなれば一番いいと思うんです。

旧来からの政令市、7大都市というのがありますが、あそこはがっちり局とか、そういうレベルなので、その中に専門職と言ったらおかしいですが、専門の造園というか、植物だとか、そういうのを担当した人たちが必ず毎年何人か入ってきて、そういう人たちが一緒になってみんなとやっているみたいなの、そういう体制ができてきていますが、まあなかなか。

事務局 政令市の会議に出ても、全然レベルが違って、本当に困ってしまうんです。

五十嵐会長 大いに刺激になるでしょう。

事務局 勉強させてもらっています。

五十嵐会長 さっきの説明した写真の中にもまさに一番気にされている強剪定の街路樹がバツと出ましたからね。例えば政令市でも横浜とか川崎とか、私は横浜に住んでいるのですが、彼らが一番気にしているのは強剪定をできるだけしない。まさに造園の職人技を生かそうという緑化管理、それをやりたいと頑張っているんですよね。それはお金もかかる話になるのですが。下手なことをやっている、市民に怒られてしまうんです。

事務局 我々は逆に強剪定してないと怒られてしまう。

五十嵐会長 市民に怒られるか上から怒られるかという、そんな状況ですよ。大切な点です。組織体制の充実もぜひ。

ほかにありますか。

川口委員 専門委員会の説明をさせていただくと、専門性に基づいた厳しいご指摘、かつ現実的なご指摘があつて、その中で特に予算のことについて、夢を抱くのはいいんだけど、現実的な対応として何ができるかというシビアな視点で事業を展開すべきだということで予算を掲載すべきだという強いご意見があつて、私はそこでちょっとこういう計画で予算を出すことってあり得るんですかと聞いたら、専門委員会の方からは、そういう時代ですと。かなり断定的なご意見もあつて、否定される方がいなかったというのが実態としてあるということをまずご説明させていただきます。

その中でもじゃあ悲観的に考えているのかということとそうではなくて、先ほどもちょっとお話があつたように、グリーンインフラとか、みどりの多面的な機能の活用という視点で言うと、従来のみどりの部局だけでみどりの展開をしようという視点ではなくて、より広範な視点で横断的な取組の中で戦略的に緑を各所で展

開していくような流れを作っていきましょうという意向が大きなところとしてはありました。

その戦略をどうこの計画の中に落とし込んでいくのかというところが今後の大きな課題で、専門委員の先生にも具体的にそれをどうしていったらいいのかといったときには、個々具体の事業がこれから入ってくるときに、漏らさずしっかりみどりの機能を事業展開しながら横断的に進めていくということが個々具体の施策の中でより見えていくような計画づくりというものが求められてくるのかなというのが全体としてのイメージです。

ですから、予算を出してちょっとしぼむという発想よりも、現実的にはこういう状況がある中で、どう戦略を組み立てていくのかという、そういう議論の仕方がなされているというふうに理解してもらえればいいかなと思います。

実際に長期的視点で作る時代から、維持管理する時代になってきている中で、その辺も長いスパンでお金の推移を出したほうがいいというのもそこなんですよね。社会情勢自体が変わってきている中で、作る時代ばかりではなくなって、維持管理する時代になって、なおかつみどりの大事さというのはより明確になって認識されるようになってきているのをより具体化していくという形でこの計画が作られていくといいのかなと。私が策定のこの専門委員会に参加させていただいて感じたところはそういうところで、そういう形でこの計画が作られていくことが望ましいのではないかと感じています。

今後そういうふうにより具体的に、実はこういう具体的施策とか、ほかでやっているところでみどりというのはこういう形で導入できていくねというような、そういうアイデアを個々皆さんからお聞きできるのもすごく有効ではないかなと思っています。

五十嵐会長  
川口委員  
五十嵐会長  
川口委員  
五十嵐会長

専門委員会の人メンバーが違うからね。

かなりシビアでございます。

その点では、ここはみどりに対しては夢が語れるから。

まことにそうです。

今川口委員が専門委員会の話をされたのと、さっき部長もチラッと触れたけれど、いろいろなところのみどり関係のプロジェクト、お金は横に置いておいて、プロジェクトで動いたときに、要するに部長のところは司令塔になって、じゃあこういうあれでやっていきましょうというような立場になっていくと、僕はそうすると今の専門委員会で言われている話というのも生きてくると思うんです。それがどなたかおっしゃったけれど、縦割り行政で、俺のお金だからこれは俺が勝手にやるよ、こっちでやるよと言ってみどり行政をやっていると、みどりの基本計画に書いてあることと全然違う話になっ

てしまう可能性があるんですね。そういうときは僕は、お金はこうなってしまうのかもしれないけれども、そういう面ではみどりの行政の母体になっている皆さんがいろいろな主導権を取れるというか、そういう役割になっていくといいのではないかと。中央集権と言ったらおかしいけれど、どこかがその分野の中心になってやらないと、こういういろいろなことが絡んでいるところというのは計画がバラバラになってしまうんです。お金はちょっと別にして頑張ってもらいたいと思います。

事務局 多面的な機能を有するというのはさんざんいろいろな会議で言っているのですが、なかなか皆さん、ほかの部局が乗ってこないというのがあって、私のPR不足なのか。

五十嵐会長 8つか9つ課題があって、トップに観光が出ているんじゃないですかと。そうしたら本当に観光で飯を食っていく部分がこれだけで、日本の外国から来る観光収入でものすごい今上がったという話を、静岡こそそういうのもっと稼ごうよと。そういう材料はたっぷりあるんだという話もこの中で展開してほしいと思うんです。そういう点ではこれから何が先頭、1番、2番、3番になるのかわからないけれど、そういうことも合わせて考えたらいいのではないかと思います。

守屋委員 お聞きしたいことが1つありまして、35ページ、脱炭素社会の形成のところ、清水駅東口エリア、日の出エリア、そこももちろんそうなのですが、恩田原と片山のエリアのところはついこの前まで生産緑地の場所だったと思うのですが、そういうところでこれから恐らくハブ都市というのもあってあそこに工場だったり物流エリアを整備していくということだと思っておりますが、これからさっき言った静岡駅の南口、草薙、あの辺はもう作ってしまったのでこれからどうするかというよりも、これから整備していくに当たってこのエリアについては緑地の縛りというのは設けてありますか。何割ぐらいは緑地にするとか。普通、工場立地の場合に1割、2割、3割というきちんと緑地を作りなさいというのがあるはずなのですが、ここのエリアに関してはそういう縛りを設けてはいないですか。

事務局 工場立地法とか開発行為の3%とか20%というのは相変わらず当然適用はされるのですが、脱炭素の間指定していただいたやつはみどりというよりは電気というか、そっちの方面なものですから、この指定を受けたことに関してみどりがというのはまずほとんどないというか、ゼロに近い状態です。

守屋委員 恐らく太陽光発電だったり、そういう方面に行きますよね。であればなおさら緑地ができるのではないかと。地面だったり、その辺は。確かに必ず空き地ができるので、パネルを敷いたとしても、地面が出る場所はあるので、そこについてはきちんと、先ほど工場芝

生、芝生もあまり好きではないのですが、あれにどれだけ薬を使うのだろうとか、どれだけ動力を使うのだろうと思うし、芝生は嬉しくないのですが。

恩田原とか片山のあの辺は今若い人たちももちろんそうなのですが、農業に戻ってきて、あの広いところとか、まだ畑とか田んぼをやっている方々もたくさんいる大谷地区ですよ。だからこそそこはあまり分断しないで、次の世代の人たちが作業するのに機械を使うのでもある程度大きくないと効率が悪いので、若い人たちが農業に従事できるような条件というのがあると思うんです。そういう緑地を守るということもみどりの計画の中に本当は入れてほしいなど。農地を守るという。

今回のウクライナではないですが、静岡に住んでいけば自給自足ができる、魚も取れるし、いろいろなものもあるし、静岡に住んでいけば海外だったり、ほかの県からわざわざ持ってこなくても、静岡にいただけで静岡で自分たちは食べていけるんだという、そういうものが SDGs につながるのではないかと思うので、そこはできるだけ大事にしてほしいなと思っています。

事務局

今回 30 ページに課題の整理をしているところで、静岡市の都市農業振興基本計画があります。ただ具体的に弾を挙げているのではなくて、ここは今回みどりの基本計画をやる段階でしっかり弾を出してよということで、農業部局と連携して取り組む予定になっています。

守屋委員

よろしく願いいたします。

川口委員

私も強く強調しています。

五十嵐会長

数年前に生産緑地の要件が緩和されたでしょう。あのとき静岡市はすごく頑張って指定をやっていたよね。ああいうのがまたどう生かされていくかというのは、同じところでやっているわけだから。だけど、今後 SDGs との絡みがどう表現されていくか、関心を持って見ていこうと思いたしますが。

ほかに何かありますか。

私、事務局をお願いなのですが、前計画の検証のところがありました。これは要するに前計画で、なぜ今度やるかというのはさっきどういう問題というか、いろいろな課題がすごく出てきていますので、それに合わせてという話があったけれども、例えば荒廃していますとか、整備率が予定どおり行きませんでしたとか、そういう問題が多々あると思うんです。この検証というところはものすごく大事ではないか。それを踏まえて、我々はこういう課題に対してはこういうふうやっていくというような問題を立てておいて、だけど予算がこうだからと、最後、もしかしたら横ばいになるかもしれないけれど、みんな金の問題で片づけないで。僕は絶対前の計画は



無視しないで、何でそのとおりにうまくいかなかったのかという、そのところも頭に置いた上で、さらに新しい課題がこんなに出てきてしまっているんですという話でやってもらったらどうかと思います。

川口委員 あと1つだけいいですか。最後の課題のまとめの課題3ですが、いわゆる大きな枠組みの中でみどりを考えたいがゆえに、持続型・集約型のまちづくり、多様化する市民ニーズへの対応という形で書いてあるのですが、この表題の工夫として、みどりととの関係をきちんと課題の表題の中にも入れておかないとみどりととの関係の具体性が見えにくいなと思います。37ページの課題3の柱のところです。ここはみどりとこの関係みたいなものを強く言うておかないと、最初ここで議論していたような内容のことが前面に見えてきにくいなと思ったので、工夫をしてもらいたいと思いました。

五十嵐会長 今の話は一番最初に分野別に見たみどりが持つ主な効果というところの整理のところも、環境という言葉があったり、みどりに関して言葉がちょっと入っているのですが、ここも今川口委員が言われたように、項目立てが必要かどうか検討しておいたほうがいいのではないかと思います。前文にありますよというのならそれでもいいのかもしれませんが。

それでは、よろしいですか。時間もないので、今日のもう1つ残っている最後の課題、みどりの将来像と基本方針について事務局から説明してください。

### 3) 第3章 みどりの将来像と基本方針

五十嵐会長 ただいま説明がありました第3章について、ご質問、ご意見がございましたらどうぞ。

川口委員 これは必ず入れてほしいという意見ではないのですが、ぜひ検討してほしいということで、静岡でここへ来たら静岡だと感じる、そういうみどりというものの重要性は皆さん共通してご指摘があったと思うんです。その要素としてはいくつもあるという形なのですが、景観とみどりという視点で言ったときに、静岡の大きな景観要素である富士山がすっぽり抜けているなと思ったんです。三保の松原でもいいのですが、顕著に静岡らしさというものを出す、それこそ広い視点で富士山と海とみどりとといった、そういう組み合わせ的なもので強く個性を出す、それが観光・交流というところと直結してくると思うんです。一目見て、ここは静岡だとわかる景観としてはいいのですが、吸引する要素としてのインパクトの強い要素として何があるのかというと、富士山というものは欠かせないのかなと思っ

たときに、わりと言及が弱いなというところを感じたので、その視点も入れるのを検討してもらえればと思いました。

五十嵐会長 日本平だってそうですよ。そういうあれで頑張ったはずなんだから。大いにこれからそういうことも書いてもらったほうがいいですね。

守屋委員 南アルプスも入れていただきたい。南アルプスは静岡市のものですから。静岡市内で結構見ることができますよね。

五十嵐会長 赤石岳は入っているんですか。

守屋委員 赤石も聖も鳴沢も入ります。

五十嵐会長 そうだよ。静岡市だよ。稜線からこっちはみんな静岡。

守屋委員 みんな静岡です。

五十嵐会長 僕も最初見て、3章とは違うのですが、周辺のみどりを大事にしていきますというあれがあったよね。あれは答申書かな。そのときに中にあった絵の表現を見たときに、今のお話にあるように、どこまで外延に入れているのかなと。当然絵に描いたあれだととても南アルプスまで行っていないんだけど、もしそういうものも大事にするのであれば、書こうと思えば書けるんですね。あんなに広いところまでは絵には落とせないかもしれない。もう一つ外の外形として静岡はあれは大事ではないのという。もしかすると富士山もそうかもしれない。それは意識したほうがいいと思います。

私の文章の好みかもしれないですが、既存のみどりの基本計画に、今の3章にあるような基本理念というところがあります。この中の2つ目のところに百年の計を見据えて歴史に残るみどりを作っていきますと宣言している。これはいいなと思っていたのですが、何となく今度のやつは硬いよね。これがさっきのお金の話とのあれもあって、また専門委員会との話もあるのかもしれないけれど、何かもう少しそういうソフト的な感じのテーマを入れてもいいのではないかな。出し方としてね。

市民にわかりやすく、市民に楽しんでもらう計画を作りたいとおっしゃっていたから、ますます何かそういう言葉遣いというか、アピールの仕方というのは必要になってくるのではないかという感じがするんです。これはぜひもう一遍、前の基本計画も見ていただいて、いいものはできるだけすくってやったらどうかしら。ずっと同じ流れでやっているんですよという話にもなるし。

大石委員 前回は申し上げたと思うのですが、大浜公園、安倍川からずっと駿河湾の海辺に散歩道と自転車道があるのですが、安倍川の川しりに風電君があったんです。その風電君が今取れてしまつて。

ところが、ちょうど石田街道を真っ直ぐ行ったところ、あの辺に通路がありまして、自転車道とハイキング道路で、風電君まで2.5km、そこまで行くのに歩いて30分、自転車で行くと15分、キロカロリーどのぐらい消耗するんだという立て看板が各所に出ているんで

す。それが今ないものですから、結局それがしょんぼりとしてずっとあるんです。今あるものをもうちょっと生かせるだろうということで、例えば八幡山の手前に小さい山があって、武田信玄のお父さんが幽閉されていたというところがあったりして、この辺は歴史が相当あるんですね。そういうものをもっと生かしたらいいのかなというような感じがするんですね。

先ほども静岡らしいという中にタチアオイをいろいろなところにもっとということと同じなのですが、フジバカマにアサギマダラが来ますよね。これは非常に何か静岡を、フジバカマをできるだけいろいろなところへ植えて、それで 1000km の気流に乗ってアサギマダラが来るといふ非常に特徴のある、そういうふうにしていこうよという話題も我々の中にあるんですね。そういうものをうまく取り入れていけばいいかなと。

実は火山の中に先ほども富士山の眺望、それから竜爪山の眺望、南アルプスの眺望というのをしっかり写真に出して、これがこの火山の特徴だよというふうな、小さな火山でもそういうふうになっているのですから、先ほど川口さんからありましたように、静岡を誇る富士山なんていうのは当たり前なことだと思ったのですが、いろいろな面からして小さく縮まったような、全体にですね。もう少し静岡らしいというのが各所にあるから、そういうものをもっと盛り上げて、スポットを当ててやると、より一層、予算ではないのですが、もっと盛り上がってくるなと感じました。ぜひそんなこともよろしくお願いしたいと思います。

五十嵐会長 ありがとうございます。今おっしゃった遊歩道とサイクリングロードの海岸線は昔に比べると松がすごく減ってしまったでしょう。あれは何か対応はやっているのですか。三保の松原はそれなりにあるけれど、静岡市の大浜とかあっちのほうは昔ほどないものね。

事務局 公共事業で伐採した場合は 10 倍の苗木を植えるとか、そんな感じではやっているのですが、自然に枯れたものについては、民地だったりすることもありまして、なかなか補充していないような。

五十嵐会長 あそこは民地が多いのですか。

事務局 多いです。

五十嵐会長 あれは昔を知る者にとってはものすごく寂しいよね。

事務局 昔ほど防風林、防潮林としての役割は求められていないというところもあります。

五十嵐会長 ありがとうございます。ほかにありますか。

それでは、今日は非常に活発にご意見、ご質問をいただきました。これからあとまだまだ完成までには何回か審議会がございますので、これからまた手も加えられるのでしょうし、専門委員会のほうも進むでしょう。それでまた新しい提案も出てくると思うので、そ

ういゝのを見ながらまた皆さんの厳しい目を、また楽しい夢が乗っかるようなものにしていただけたらと思います。  
大体予定時間が来ましたので、これで終わりたいと思いますが、よろしいですか。ありがとうございました。

以上